

香川生物 (Kagawa Seibutsu) (19): 125-126, 1992.

高松市御坊川において捕獲された オオサンショウウオについて (短報)

須永 哲雄

〒760 高松市幸町1-1 香川大学教育学部生物学教室

A Record of Giant Salamander (*Megalobatrachus japonicus*) Captured in
River Gobogawa, Kagawa Prefecture, Japan

Tetsuo SUNAGA, *Biological Laboratory, Faculty of Education,
Kagawa University, Takamatsu, 760 Japan*

1991年4月4日に高松市内の御坊川においてオオサンショウウオが捕獲された。香川県教育委員会の依頼を受けて、筆者は捕獲された個体の種の同定と捕獲場所付近の緊急調査を同月9日に実施したので報告する。

捕獲された個体を観察し計測したところ、この個体は国の特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオ (*Megalobatrachus japonicus* (TEM.)) の、体長68cm、体重2.3kgの成体で性別は不明であるが、外見や行動に異常はみられず弱っている様子は全くなかった(図1)。

捕獲時の状況についての報告によると、たまたま高松市鹿角町地内での河川改修の作業中に水深20~30cmの水溜りから発見され保護されたとのことであった。そこで御坊川の捕獲地点

(図2)を中心に、その下流側2kmの間に2地点と上流側8km(香東川岩崎橋下手の取水地点まで)の間に9地点を設定し現況調査を実施した。調査項目は1)同河川の流幅、水深、底質、水温、2)河川中及び河岸の改変状況、3)水中の動植物及び河辺の生物相とした。捕獲地点を含めた計13地点を概括すると次のような特徴点があげられる。

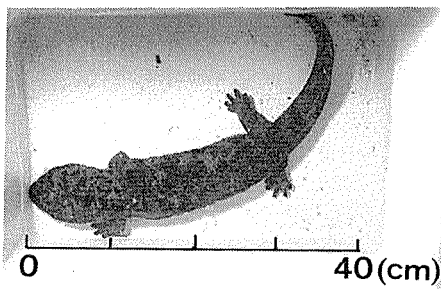


図1. 保護されたオオサンショウウオ個体。



図2. オオサンショウウオは左上の小さな水溜りで捕獲された。

1) 御坊河の主幹線流路は上記いずれの調査地点においても兩岸及び河床ともコンクリート、護岸となっており、その流幅も最下流地点で4 m、部分的には2 m以下の地点もあり、極めて狭い。河床も平坦で土砂等の堆積も河川水の淀みもほとんどみられず、水深も10 cm以下の地点が多く最大で40 cmであった。小河川と呼ぶよりも、いわば単純な人工流水路である。

2) 同河川流域の大半は農耕地で一部民家の集中する地域をも通過して高松市街地に行っている。農業用水として利用されるため、流路の随所に取水用樋門が設置され操作されており、このため一部区間では流量が皆無に近い様相もみられる。また一部では民家集落からの生活排水も流入している。

3) 河川内には接合藻類(アオミドロ類)が付着し、カワナ (*Semisulcospira libertina*) の生息が観察された他、魚類や両性類(カエル類とその幼生)もほとんど観察されなかった。

以上の調査結果及びこれまでの本種に関する研究を参考にすると、今回の捕獲地付近には環境構造(流量、水深、底質、巢孔など)においても生物相(食物の質と量の確保)から見てもオオサンショウウオの生息条件は無い。したがって、今回の発見個体は恐らく放流個体であろうと判断し、筆者は現場への再放流をさげ、同個体を適正な保護管理下に飼育することを提案した。この処置をとることは貴重な個体を保護保存する意義の他に、将来において本県下で再び本種個体が捕獲された場合に同個体との比較再精査が可能となることがある。また今後の調査研究の進展によって本県内での生息が確認さ

れる事態が起これば、改めてその地に放流してやることも考えられるのである。その後、同個体は文化庁の許可を得て屋島山上水族館で飼育されている。

以上に今回捕獲されたオオサンショウウオに関しての調査の概要を述べたが、最後に残る疑問についての見解も述べて参考に供したい。それは「どうしてあのような場所で体長68 cmものオオサンショウウオが捕獲されたのか」についてである。本県下での捕獲例は確かなものでは1939年に綾川水系(佐藤, 1943)、1955年に土器川水系(環境庁, 1978)及び1978年に湊川水系(環境庁, 1978)の3件が報告記録されている。しかし、いずれの記録とも成体の1個体だけが発見され、未だに卵や幼体の発見は報じられていない。前述のように今回の発見もその発見場所の状況からして、この地で同個体が永年生息し成長したとも考えられない。ましてや同水系内に繁殖可能な条件があるとはとも考えられない。今時の発見を機会に水系の接する香東川水系での探査努力を強める必要はあるが、取り敢えず今回の発見個体はこれまでの報告例にならって他地域から人為的に搬入されたものと解釈し、その当否は将来の調査研究の成果に委ねたい。

引用文献

- 佐藤井岐雄. 1943. 日本産有尾類総説. 日本出版社. (生駒義博編. 1973. 日本ハンザキ集覧. 所収より引用した)
- 環境庁. 1978. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(両生・は虫類)香川県.